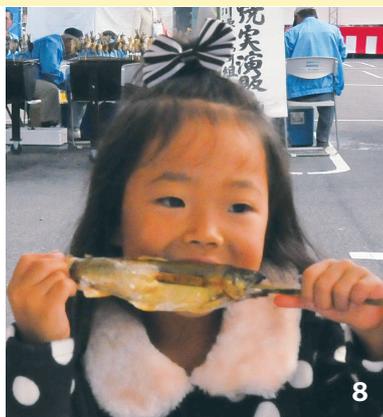




まちも、こころもたわわに ～まさき町産業まつり～

本年、初めて町内で産業まつり「たわわ祭^{さい}」が開催されました。
開催の裏にあった、携わった人たちの思い—。
その思いが、多くの人に伝わったとき、まちも、こころもたわわになりました。
開催までの経緯や参加者の思いに触れながら、たわわ祭がもたらしたものを考えます。



1 まさきの恵み発見の入口 2 オープニングでの餅まき 3 「おもちいかがですか？」 4 宮城県山元町産のりんご 5 どれもまさき自慢の味だよ 6 元気いっぱい祭りを盛り上げてくれた 7 延べ7,650人が農水商工まさきの恵みを求めて来場 8 あゆ、おいしいね 9 バナナで釘、打てたよ

● たわわ祭での恵みって？

おもてなしブース

宮城県亘理、山元両町から届けられるみちのくの恵み。そして、愛の葉 Girls が届ける愛媛の農産物などもあります。

めぐみブース

うまいものブース

ちりめんなどの海産物、まさきでとれた野菜、麦、それらを使った料理などが盛りだくさん。

まごころブース

町内にある企業が提供する子どもイベントや福祉用具の紹介。人にも、モノにもまごころが込められています。

すごいものブース

町内に関係ある企業（工業関係）が生産している「すごいもの」を展示。あっと驚きます。



たわわ祭のポスター

担当者に聞く



まさきの魅力発見のきっかけに

● 産業建設部産業課長 徳居 芳之

「恵み、めぐるまち、まさき。」

松前町には、魅力的な農水産物や食べ物、匠の技から生まれる製品、そして、それらを作る魅力的な人たちや企業がたくさんあります。これまで知らなかった、気付かなかった松前町を発見してもらい、もっともっと松前町を好きになる「魅力発見」につなげてほしい。そのきっかけとして、「産業まつり」のイベントを企画しました。

産業まつりの特徴は、行政主導ではなく、松前町産業連携推進協議会が企画したことです。メンバーが協力して、初めての産業まつりを成功させ、産業活性化のきっかけづくりとするため、出店業者の募

集方法、内容、開催場所などを何度も協議を行いました。その中で、「まさき村」や推進協議会のオブザーバーとして参加している「エミフル MASAKI」の協力により、開催までたどり着くことができました。

また、産業まつりを開催するにあたり、イベントの名前を「たわわ祭」と名付けました。まさきにある実りが、新たな種子を生み出し、芽が出て、実がもたらされるように。そこに住む人が、まち全体が、実りあふれ、実も、こころもたわわになるように。「たわわ祭」という名前には、まさきを元気にしたいという協議会の思いが込められています。



1

成功のカギ 垣根を越えた思い

農業、水産業、商業、工業、関係団体、行政が垣根を越えて、まさきの産業を盛り上げようとする共通した思いがありました。



1. 松前町産業連携推進協議会の様子。垣根を越え、松前町の産業について考える 2. 物産展の様子。業種関係なく、統一したレイアウトで、まさきをPR 3. 松前漁協がブランド化した商品「ハモ丼」。イベントで販売すると、完売してしまう人気商品

「まさきをもっとPRして、まさきをもっと元気に！」
競争社会の現代。他よりも魅力的なものでないと、消費者の心はつかめず、衰退…。そんな社会の中で、平成24年10月に始動したのが「松前町産業連携推進協議会」です。農業、水産業、商業、工業と地域の関係団体、行政が協力。そして、みんなでまさきの産業を盛り上げる。この思いを胸に、集まった11団体と行政。垣根を越えて多くのメンバーが集まりました。
活動が始まって約1年。名古屋の百貨店で、まさき単独開催となった「うまいものフェ

Pick up !!



まさきデザインワークショップの様子

今、まさき力を発信する

「まさき」のロゴマークが印字されたグッズが製作されるなど、まさき力を発信する動きは、産業連携推進協議会以外でも進んでいます。その中で、新たな試みとして11月7日、「まさきデザインワークショップ」がスタートしました。まさきで生み出される商品がブランド力を発揮

し、全国に発信ができるように、まさきのロゴマークを使った具体的な商品パッケージデザインをみんなで考えます。

ワークショップには、町内企業7社が参加。まさきのロゴマークをデザインした山内敏功さんを講師に迎え、本年度中、全6回の日程で行います。

ア」や、大阪で開かれた物産展にも積極的に参加。新しく作られた「まさき」のロゴマークを使用し、統一されたブースで業種関係なく、みんなでまさきをPRしました。
また、商品のブランド化にも着手しました。生産するだけ、とるだけの産業から、加工、販売や流通まで関わる産業へと転換。はだか麦やハモなどのブランド化を実現しました。
これらの活動を通して、少しずつ、少しずつ、私たちのまち「まさき」が町内外へ広がり始めました。その中で、次に目を向けたのが、地元まさきでのイベントの開催です。各産業の事業者と関係団体が集まり、まさきのあらゆる恵みをPR。訪れた人に、今まで知らなかった、あるいは気付かなかった、まさきの恵みを発見してもらいます。
まさきで初めて開催される「産業まつり」。そこには、町外の皆さんだけでなく、まさきに住む皆さんへのメッセージも込められています。そのメッセージを、協議会委員である徳居産業課長に聞きました。



まさきの珍味

瀬戸内海の豊富な漁場に面した松前町は、ちりめんやいりこなどを使った小魚珍味の

生産が盛んです。現在、その加工生産量は日本一。全国シェアの大半を占めています。



まさきの野菜

豊富な水と肥沃な土地、温暖な気候と松山市に隣接する立地条件を生かした都市近郊型農業を

行っている松前町。米、麦、レタス、ネギやイチゴなどを栽培しています。



来場者の声

知って来た人、知らずに来た人、町内外問わずさまざまな発見がありました。



松前

上高柳

池本 ひとみさん
颯杜さん
遥夏ちゃん

旗が立って、知り合いが売子をしていたので来ました。雰囲気かぎやかで楽しかったです。四国ガスの液体窒素の実験はすごかった。



伊予

壬生さんファミリー

知り合いがいたので来ました。アユがおいしかったです。いろいろなブースがあってすごいいいと思いました。



松山

水口さんファミリー

たまたま来ました。(同じような) 松山市でのイベントは、よく行っています。今回初めてまさきのイベントに来てみて、知らなかったところが知れてよかったです。

出店者の声

初めての試みに参加してくれた人たち。参加してみて感じた、率直な感想を聞きました。



めぐみ

商工会女性部

うどんと焼きそばを販売しました。うどんにはまさきのだしりこを、焼きそばにはまさきのねぎを使って作りました。皆さんにも好評でした。たわわ祭は初めての試みでしたが、いろいろな業者が集まって、それぞれが趣向を凝らして、まさきの商品の宣伝ができてよかったです。



めぐみ

松前町生活研究グループ
連絡協議会

義農祭で販売している、30年間大切に作り続けている「義農まんじゅう」を販売しました。参加してみて感じたのは、宣伝がたりなかったのではないかと。知り合いに話しても、祭りのことを知らなかった人もいました。また、他の町内のイベントとの兼ね合いを考え日程を調整すれば、もっと盛大にできるのではないかと思います。



●他の参加者の声

- ・PRもできるし、仲間同士の絆も深くなる。今後も参加したい。
- ・今回買ってくれた年齢層の人に合った商品を、来年は用意したい。



うまいもの

松前サムルノリ

普段は韓国太鼓を演奏する彼女たちが、バチを料理道具に持ち替えて参加してくれました。

今回は、他のブースの人と一緒に、まさきの発展に役に立てればと思い、参加しました。

初めて、はだか麦を使ってチヂミを作りました。もちろん使っているのは、まさきのはだか麦。もちもちの食感になるように、韓国出身の奥さんに配合の割合を聞きました。その他、イカ、ニラ、ネギなど、できるだけまさきのものを使うようにしました。



Pick up!!

まさきの恵みは、農産物や商品だけではなく、まさきで働いている人、開発している人、関わりのある人も、大切な恵みの一つ。たわわ祭では、その人たちもまさきを盛り上げようと参加してくれました。



まごころ

株式会社 伊予銀行

小学生向けのクイズ大会を実施。



すごいもの

四国ガス(株)

—163度の世界の実験を実施。

ステージ参加者の声

会場を盛り上げるため、駆けつけてくれた彼女たち。さまざまな舞台を経験している彼女たちが感じたことは...



おもてなし

えは愛の葉 Girls

まさきはいいところで、楽しかったです。レタスやブロッコリーなど知らなかったまさきの特産が知れたし、麦のおいしさも知れてよかった。人も穏やかで優しく、あったかい気持ちになれました。

まさきは、中予からも南予からも来やすい場所にあるので、もっといろいろな人に来てほしいなと思いました。

Pick up!!

愛の葉 Girls は、愛媛の農業、産業、地域の活性化の応援のために、活動しているグループ。今後もまさきの活性化のため

に、お手伝いをしてくれるそうです。



おもてなし

「楽しかった」と笑顔でうなずき合う彼女たち。この楽しいという気持ちは、ダンスを通じて多くの人に伝わりました。

JEUGIA
カルチャー
スクール

成功のカギ 広がった思い

たわわ祭当日、協議会の人たちの思いは、出店者の協力です。つながって、訪れた人にも伝わり、ひとつの形となりました。

11月16日、たわわ祭当日。会場となったまさき村(エミフルMASAKI敷地内)の駐車場には、町内産業を支える農水商工業の事業者と関係団体の49団体が集結。「おもてなし」「めぐみ」「まごころ」「うまいもの」「すごいもの」の5つのブースに分かれ、各団体がまさきの恵みを提供しました。特設ステージでは、農業アイドルユニット「愛の葉Girls」のライブやジュニアダンスステージが行われ、会場を盛り上げました。「まさきの産業を盛り上げて、まさきをもっと元気に！」という思いで集まった出店団体や、ステージに参加した皆さん。まさきのもので使った商品や、まさきで生み出されたもの、そして、自身の人柄で、まさきを積極的にPRしていきました。

その思いは来場者にも伝わります。延べ7650人の来場者から聞こえてきた「おいしい」「楽しい」「すごい」「これもまさきのもので使っているの?」という声。一人一人が、今まで知らなかった、気付かなかったまさきのめぐみを発見し、味わい、楽しめました。

この日のために、苦労を重ねた協議会の人々の思い。この思いは、出店者の協力によって来場者にも伝わり、みんな「恵み、めぐるまち、まさき」の良さが共有できました。そして、そこにいた人に笑顔が生まれる1日となりました。



まさきの未来のカギ 町も、こころもたわわになろう

たわわ祭がまさきにもたらしたものを。

これを考えたとき、これからのまさきに必要のカギが見えてきます。



たわわ祭成功のカギは「まさきをもっとPRして、まさきをもっと元気に！」という垣根を越えた思いが、多くの人と共有できたからです。祭りを企画した産業連携推進協議会、それに共感し、出店した企業や団体。まさきの恵みに気付き、新たな発見をした人たち。三者の思いが重なったからこそ、まさきの恵みが、そこにいた人のところが、たわわに実りました。

でも今回のたわわ祭は、ゴールではなく通過点。一步を踏み出したところです。参加者から聞こえた「宣伝」「集客力」の声。見えた課題もありました。その課題の解決に向け、もっと多くの人にまさきを知ってもらいためのカギは、祭りで見られた、「まさきを思う気持ち」を共有することではないでしょうか。

行政、企業、住民の区別なく、みんながまさきを元気にする。まさきには、あなたがまだ知らない魅力がきっとあります。みんながもっとまさきのことを知ろうとして、それをみんなが共有できれば、まさきの恵みが、そこに携わる人のところが、さらに豊かに、たわわに実るはず。

おもてなし

宮城県亶理町の皆さん



亶理町の場合、産業まつりは来場者の購買力などを考え、祭り目的で来るように、周りには何もなくて開催しています。一方、松前町は、開催場所（エミフル）は人も多く、よい場所と感じました。だから、その人たちが祭りにも足を止めてもらえるよう、さらなる工夫があればよいと思います。

おもてなし



りんご、ジャム、ぶどうジュースや仮設住宅のお母さんが作ったストラップを持って来ました。山元町の産業まつりは役場で開催します。そのためか、思ったよりも規模が大きかったです。また、地元の産業まつりより人の流れがゆったりとした印象も受けました。山元町では、買うものが決まっているのか、早い時間に人が集中します。

「もっと祭りのことを知ってもらい、もっとたくさんの人にまさきを知ってもらうこと」。これが、ステップアップのカギかもしれません。たくさんの恵みがあるまさき。それを知る人が増えれば、もっと恵み豊かとなるはず。

先輩に学ぶ

ステップアップへのカギ

たわわ祭には、震災復興のために町から職員を派遣している「宮城県亶理町」「宮城県山元町」からも出店がありました。比較しての感想から、見えるステップアップのカギとは…



山元町の果物など

亶理町の笹かまぼこ

Pick up!!

松前町の広告塔
まさきPRスタッフが始動

たわわ祭での宮城県亶理、山元両町のブース。そこには、慣れない接客に戸惑いつつも、笑顔で接客し、販売を行う「まさきPRスタッフ」の姿がありました。

本年度より、まちの知名度向上と魅力発信のために結成された「まさきPRスタッフ」。本年10月に大阪で行われた「愛媛のふるさと愛味ものフェア」を皮切りに、20～40代の町職員31人が自ら広告塔となって、県内外の物産展や町のPR事業に参加しています。



まさきPRスタッフ

たわわ祭。普段のジャンパーを脱ぎ